



道総研

2026年6月10-11日に金星丸による全湾ラーバ調査および貝毒プランクトン広域調査を実施しました。なお、今回は悪天候により日高沖調査点が欠測となりました。

## ● 出現数は昨年を下回る。付着サイズ(250 $\mu$ m以上)が主体。

平均出現数は139個/トンと昨年を下回りました(図1)。殻長組成は250 $\mu$ m以上の付着サイズが主体であり、昨年よりも大きいです(図1)。現在付着継続中とみられます。

## ● ラーバは湾内沿岸部で多く、湾外では少ない。

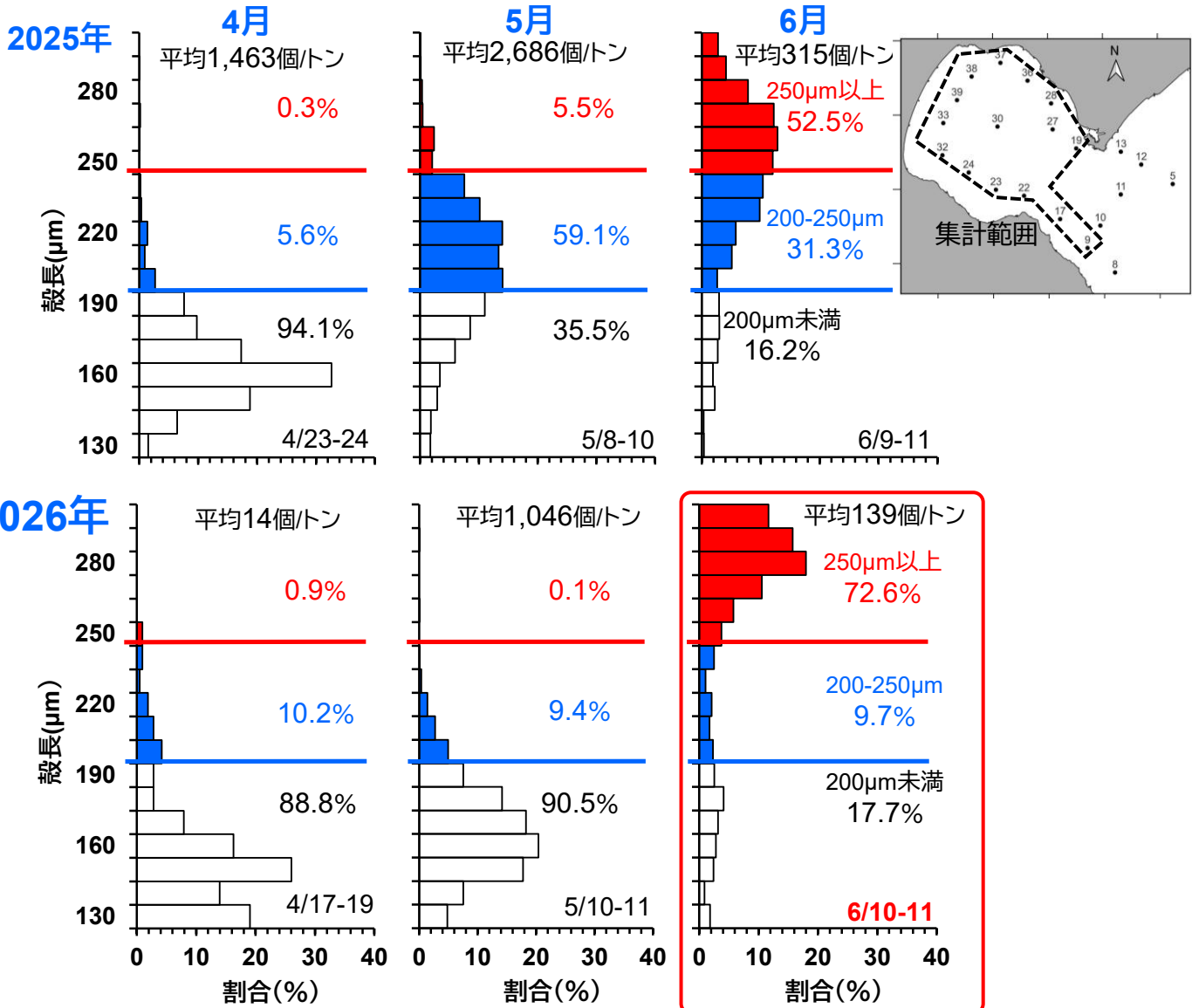
ラーバの分布は湾中央部よりも沿岸部で多い傾向でした(図2)。昨年と比べて、相対的に湾外の出現数が少ない傾向でした。

## ● 昨年と比べて、貝毒プランクトン密度は湾内では高く、湾外では低い傾向

湾内の貝毒プランクトンの密度は5,000細胞/Lを超える高い値でした(図3)。今後の毒性値の上昇に注意が必要です。一方、湾外の貝毒プランクトンの密度は昨年よりも低い傾向でした。

### 図1 ラーバ 殻長組成

### 昨年よりも少ない。250 $\mu$ m以上が主体。

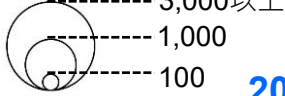


## 図2 ラーバ 分布図

湾中央よりも沿岸部が多い。湾外は少ない。

- 前回(5月)は湾中央部が多かったですが、現在は沿岸側のほうが多い状況です。
- 昨年と比較して、出現数は湾外に対して湾内のほうが多い傾向です。

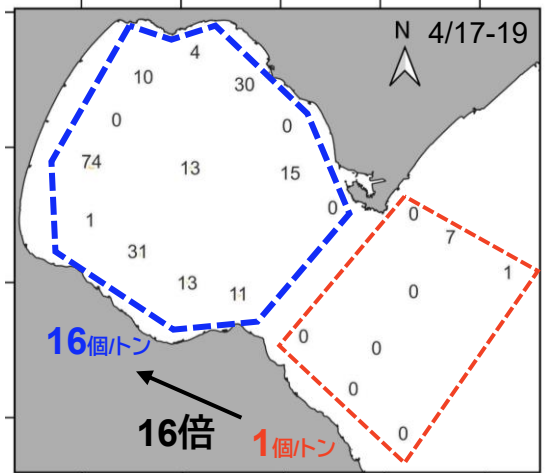
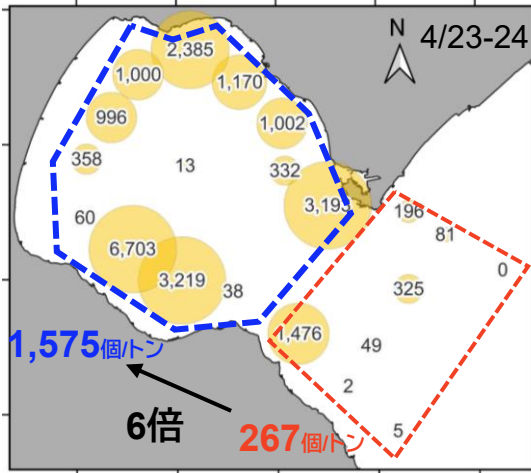
単位：個/トン



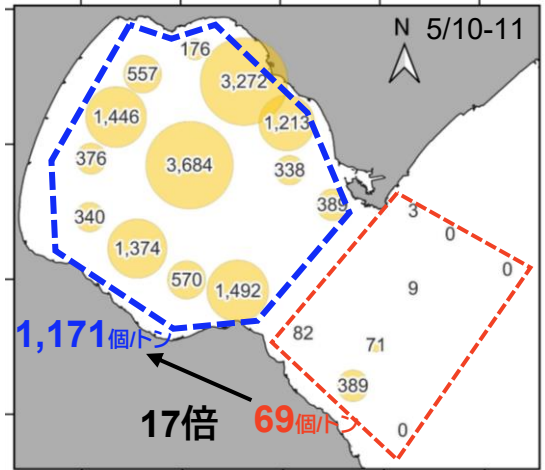
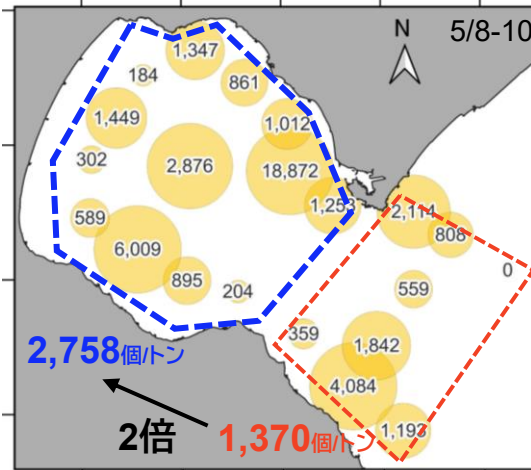
2025年

2026年

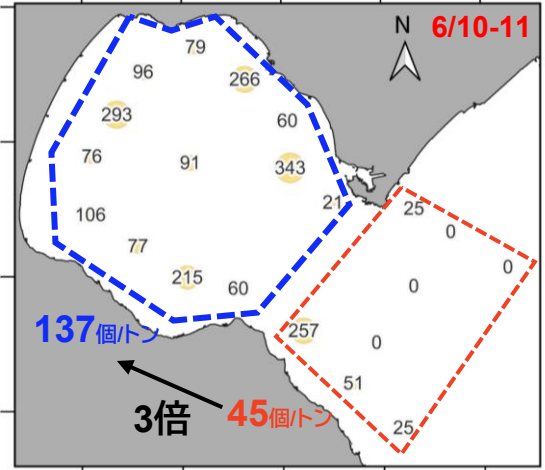
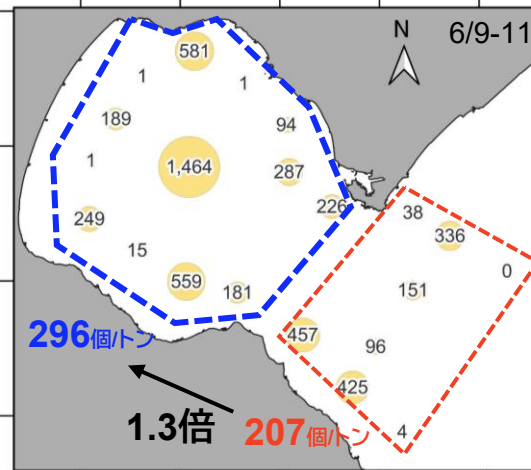
4月



5月



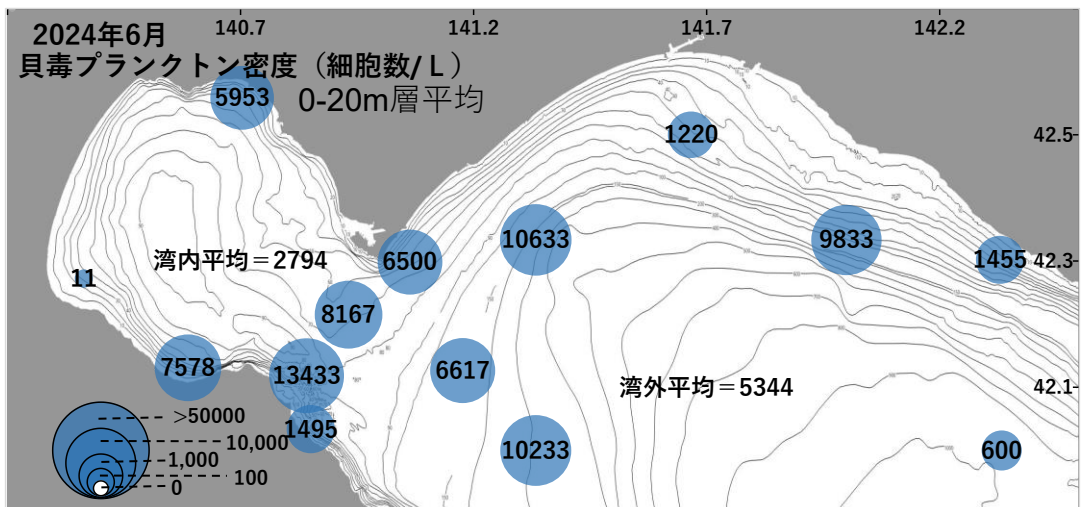
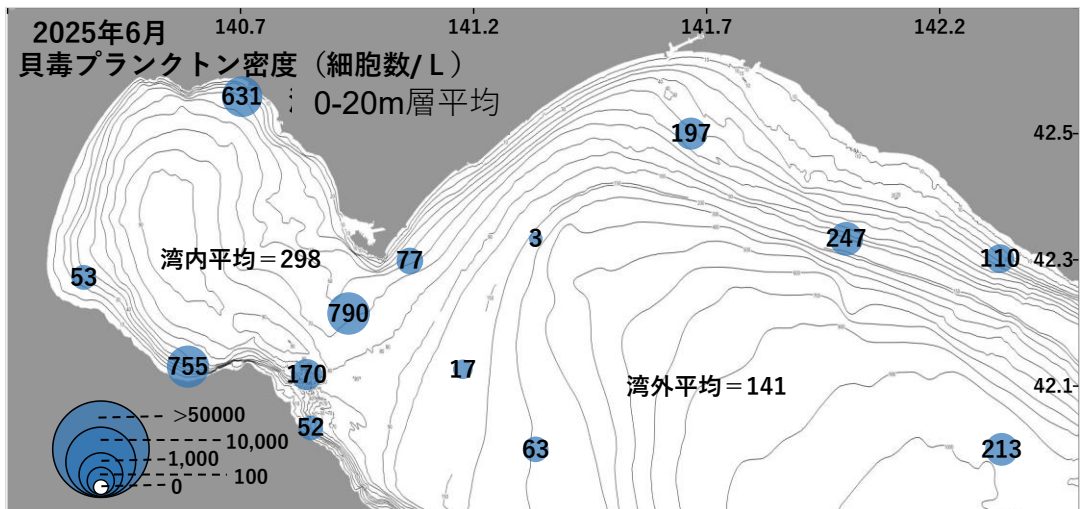
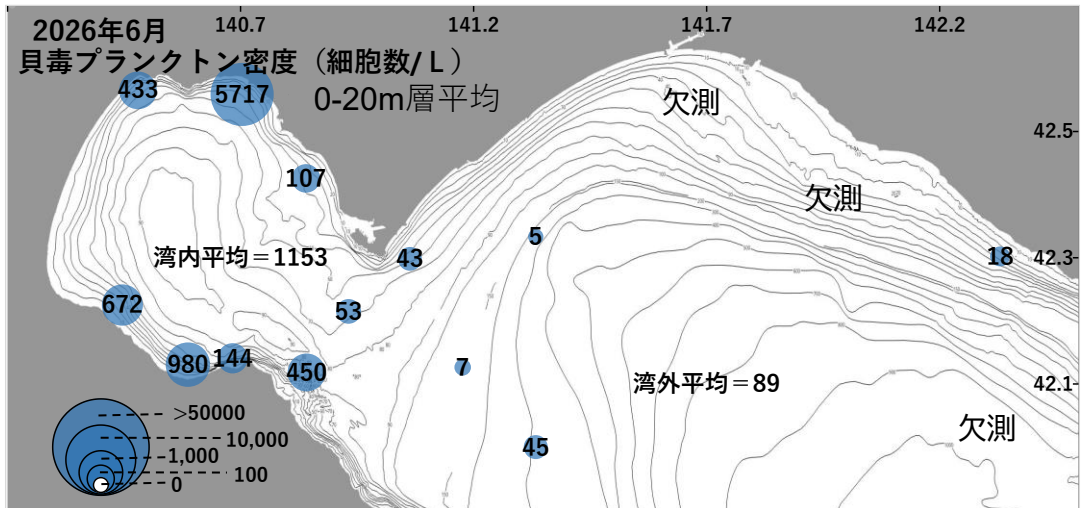
6月



### 図3 貝毒プランクトン広域

### 湾外は昨年よりも少ない。

- 近年の高毒化の原因の一つとして、湾外からの高密度の貝毒プランクトンの流入の可能性が指摘されています。
- 湾内: 貝毒プランクトン密度は昨年よりも高く、一昨年よりも低かったです。警戒基準(100細胞/L)を超過しています。
- 湾外: 3地点で欠測になりましたが、貝毒プランクトン密度の平均値は89細胞/Lで昨年(平均141細胞/L)を下回りました。また、今回観測できた7地点のうち5地点で昨年を下回りました。



注意: 時化等によって、日高沖の調査点が欠測になりました。